

「土砂災害から守る」

神奈川県 愛川町立半原小学校 6年 <sup>ともかげ</sup>友景 <sup>しゅんすけ</sup>俊輔

土砂災害は、楽しい日々の生活を急に壊し、沢山の人の命を奪っていき、恐ろしい災害です。そんな災害から僕達は、身を守っていかなければいけません。

土砂災害は、大規模な地震や豪雨により発生します。2014年に起こった広島土砂災害では、災害では最悪の、77人の命が奪われました。被災地では、土砂の跡が残る所が見られ、住む家を無くした人が沢山います。そして、最近でも熊本地震による大規模な土砂災害が起っています。全部で土砂災害は190件発生し、18人の命が奪われました。被災地では、いたるところで山の一部がそぎ落とされたように無くなり、山のふもとの住宅街では木や土砂が流れこみ、荒れ果てた姿に変わっていました。

日本は傾斜が急な山が多く、台風や大雨・地震が多いため、土砂災害が発生しやすい国土環境にあります。毎年、1年に約千件の土砂災害が発生していて、土砂災害が発生するおそれのある危険箇所は、日本全国で約53万箇所もあるのです。さらに、僕の住んでいる神奈川県は、2014年に50件以上の土砂災害が起こった、全国的に土砂災害が多い都道府県なのです。そんないつ起こってもおかしくない土砂災害を防ぐために、国土交通省や都道府県では、砂防えん堤等の施設整備や警戒避難体制の対策を実施していますが、僕達1人ひとりが土砂災害に対して日頃から備えておくことも重要です。では、どのような事に注意して、備えておけば良いのでしょうか。そこで、僕は土砂災害から身を守るために知っておきたい事を調べた所、3つのポイントを知ることで、土砂災害に備えやすくなるのです。

まず1つ目は、住んでいる場所が土砂災害危険箇所かどうか確認する事です。土砂災害危険箇所とは、土砂災害が発生するおそれのある地区に指定されています。普段から自分の家が土砂災害危険箇所にあるかどうか、国土交通省砂防部のホームページ等で確認が出来ます。また、危険箇所でもなくても、付近に崖地や小さな沢がある場合、十分注意が必要です。

2つ目は、雨が降り出したら土砂災害警戒情報に注意する事です。土砂災害警戒情報とは、大雨による土砂災害発生の危険度が高まった時、市町村長が避難勧告等を発令する際の判断や住民の自主避難の参考となるよう、都道府県と気象庁が共同で発表する防災情報の事です。気象庁や、各都道府県の砂防課等のホームページで確認できるほか、テレビやラジオの気象情報でも発表されます。携帯電話等に自動で情報を教えてくれるサービスもあるのです。また、各地の細かい情報も、気象庁や都道府県のホームページで確認出来ます。

3つ目は、土砂災害警戒情報が発表されたら早めに避難する事です。特にお年し寄りの方や、障害を持つ人等、避難に時間がかかる人は、移動時間を考え早めに避難する事が大事です。また、土砂災害の多くは木造の1階で被災しています。避難所への避難が困難な場合、近くの頑丈な建物の2階以上に緊急避難するか、それも難しい場合は家の中でより安全な場所に避難する事が大切です。

これらの3つのポイントを普段から頭に入れて生活する事で、万が一土砂災害が発生したとしても、より多くの命を救う事が出来るのではないかと僕は思います。

土砂災害はいつ、どこで起こるかは予測出来ません。ちょっとした油断が土砂災害に巻き込まれる原因になるかもしれません。そのために、土砂災害の事を学び、日頃から備えておく事が大切だと思います。そして何より、「自分の命は自分で守る」という心を持つ事が大事だと、僕は思います。